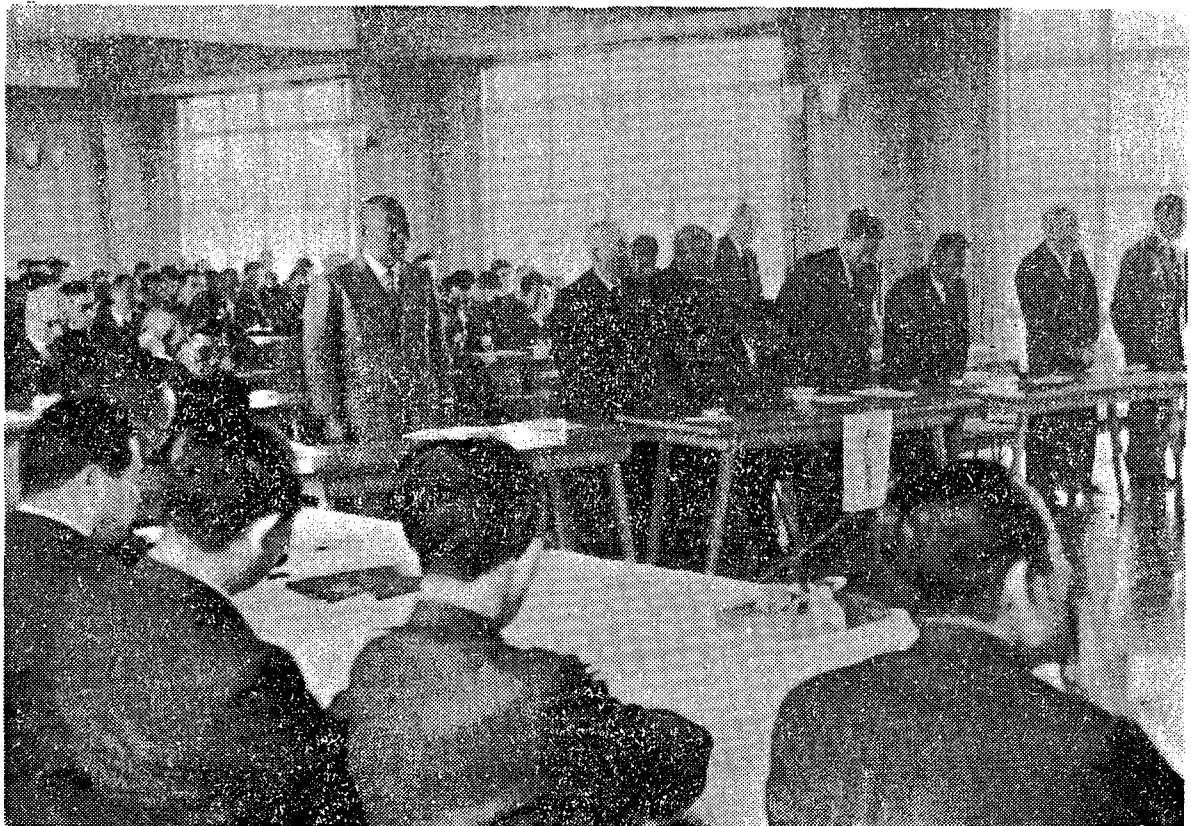


拓水

第四四号昭和卅五年四月十五日発行
毎月十五日一回発行 一部 十円
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可

四 月



(第八回兵庫県漁業協同組合大会)

・兵庫県漁業協同組合連合会
財団法人 兵庫県水産業改良普及協会

水産ニュース

釣糸「ハイゼックス」の普及について

全漁連では三井化学工業KK生産のハイゼックス（ポリエチレン）繊維はいろいろ優れた性質をもっているため、種々試験を行った結果、漁業用の糸としても優秀な成績を得たので、昨年度から同社より原糸を購入しこれを燃糸として、系統購買事業の取扱品目として各県漁連を経て漁業者に供給されております。

釣糸（特に深海用）。延縄、曳縄等に好適と認められ、一度使用して良好な結果の出た漁村では急速に普及して使用量が増大しており、何れの場合も従来使用していた天然繊維のものに比較して漁獲能率が向上し防腐保存の手間を省略し、総合資材費を節約することによって経営改善に貢献していることが著しいと認められております。

本品は何分にも新製品で、あまり知られていない地方にはほとんど供給されていらないような現状であり、沿岸零細漁業の経営改善のために全国的に本品の普及を期しておられます。しかし普及の徹底を期すには漁業者が実際に使用し、その効果を目

ら体験することが最も有効な方法であり、そのため全漁連では研究グループ等に所属し漁業経営の改善に熱意を有し、その使用結果を把握出来るような適任者には是非実用試験を実施して頂き、この場合使用するハイゼックス燃糸については、特に半額で提供する考えで、水産試験場や県漁連にその斡旋と指導を依頼されております。（県漁連）

水産物市況放送の開始について

N・H・Kでは、この4月4日より次のように水産物市況放送を行っております。市況の見通しをたてて有利な販売を行ううえに参考とされまじよう皆さまの御活用をおすすめいたします。

1、放送日時

4月4日以降土、日曜を除く。毎日、午後6時25分より5分間、

第2放送による。前半3分間は全国向け、後半の2分間はローカル向けで関西方面は大阪市場より放送。

2、放送内容

(1)、全国向け

当日の総販売数量、品目別販売数量、入荷状況、市況等。

(2)、ローカル向け

大衆魚の卸売価格及び標準小売価格等。

第一兵庫丸第十三次航海に就く

第十一次航海

三月六日出港準備を完了し。翌午前十時東支那海に向け鹿児島港を出港第十一次航海に就き順調なる操業を継続して同月十六日漁場を切揚げ十八日鹿児島港に入港翌十九日左記の通り水揚げした。尚月夜時期にて市況も比較的順調であった。

漁獲数量 約三一、八〇〇匁
水揚金額 約一、四七〇、〇〇〇円

第十二次航海

三月十九日出港準備を完了し東支那海漁場に向い同月二十二日より操業を開始し、漁獲成績も順調に延び二十八日操業を終えて帰途に就くも各水揚地とも巾着漁の影響にて市況悪く結局鹿児島港に向い同月三十日同港に入港翌三十一日水揚実施するも、せり市開始三十分より豪雨に見舞われ仲買の買気も益々低調となり市況は暴落する結果となり誠に残念であったが水揚状況左の通り。

漁獲数量 約三七、五〇〇匁
水揚金額 約一、一三〇、〇〇〇円

順調な操業を続けていた第一兵庫丸は第十二次航海水揚げ後出港準備を完了し、第十三次航海就航のため、四月一日午前〇時に鹿児島港を出港

し東支那海に向いましたが、出港後間もなく〇時二十分頃羅針儀の照明灯が故障消滅し、小雨模様にて霧気となり前方の視界きわめて不良となりましたので、〇時三十五分に機関を微速に落し、羅針儀の照明灯の修理復旧中〇時五十分頃鹿児島港外沖小島北西端に底触乗上げ直ちに機関を停止しました。此の時の状況は船体が右舷に約十七度傾斜致しておりましたが、離洲すべく万端の準備を終え、上潮を待ち、同日七時すぎ自力にて離洲浮上し、反転して鹿児島港に引き返し、船体を充分調査致しましたが浸水はなきものの、船底の損傷状況不明のため、翌二日鹿児島山川港（鹿児島市に適當な造船所なきため）に回航し、船底の清掃塗装をも兼ね山川造船所に上架し船底を充分調査した結果、船首材底部に微傷一ヶ所並に軸より約一米後方の舷底外板に二ヶ所の凹傷を発見しました。その他の外板船底に異状なく損傷軽微でありましたが、鹿児島海運局検査官立会の上四月四日修理に着手翌五日完成し、同日十八時山川港を出港し、東支那海に向け第十三次航海に就きました。船長以下乗組員一同、禍を転じて福となすべく一層慎重なる航海を続け多大の成果をあぐべく、意気を新にして目下南下中でありませう。

第八回 兵庫県漁業協同組合大会(一)

去る三月二十六日水産会館において開催された第八回兵庫県漁業協同組合大会は、当日の悪天候にもかかわらず約一八〇名の漁協役員が参集のもとに盛会に開催されました、その内容をお知らせ致します。なお講演「漁業協同組合の運営と振興について」及び懇談会の内容については次号に掲載致します。

開会の挨拶

大会々長 三浦 清太郎

本日県漁連主催の恒例による県下第八回漁業協同組合大会を、吉田農林部長を始め多数来賓御臨席のうえ茲に開催するに際しまして、関係各位におかれましては公私何かと御繁忙中にもかかわらず多数御出席を頂きました事は、県下漁業界の将来のため誠に意を強く感ずると共に、この点衷心より厚く御礼を申し上げます。さて、現下我国経済界の実情は戦後漸次顕著なる拡大発展を遂げ、殊に産業界においては産業ブームの観を呈しているやに見受けるのでありま

す。ところがこの産業界にも産業構造上のうえに、相当大きな優劣の差を生じていることは見落せない事実と信じてるのであります。

そこで基礎的産業のものは別として戦前には優位な位置にあった部門が構造上の如何で不振後退を余儀なくされたり、また最新化学の粋を集め国際水準に伍している構造基盤のものも飛躍的に伸張してはいますが、とにかく資本主義の原則上、大資本の威力また外国との技術提携や、資本導入のもの等の強身は顕著にして、今後貿易の自由化と関連してこれが様相は、より一層の真入をかけるものと想像されるのであります。

従って以上の諸点より考察しまして一度我国漁業界に目を転じてみまするとき、我国漁業の実態にも大きな変化があるのであります。為にか現行漁業制度の改正が強く要請されるのも、この変化が大きな理由なりと推考されるのであります。ところでこの変化している主たるものを若干拾ってみますと、先ず公海の自由原則と言う国際的慣習も、今や各国それぞれの立場に於ける主張と制約によってこれが解消されている事実、更に漁業生産伸張の面では、漁船漁具、漁法等の進歩発展により順調なる伸張を示めし、去る三十三年の総漁獲高五五〇万トンで戦前戦後を通して最高の記録を示しておりますが、これは漁業生産手段と漁業構造の進歩的变化を物語るものなりと思ふのであります。更にかつての食糧生産一本主義の政策も既に改変され、今や漁業経営安定を目的とした経営の合理化の段階にありますので、この安定施策に関連して生産手段と投下資本の整理、自主的漁業の調整、金融の改善、漁価維持対策やこれに伴う消費流通改善等が目下の急務の問題点となっているのであります。また漁業資源の動向の面ではその魚種別組成はニシン、マイワシ等

目次

水産ニュース	1
第八回 兵庫県漁業協同組合大会	2
水産試験場の新しい施護 「漁民教室」施工す	5
新農薬PCP除草剤の使用 要領について	6
漁業今昔 いわしの巻	6
兵水式人工乾燥機の研究会 設立される	7
昭和三十四年一月二月の 海面漁獲の概要	7

沿岸性資源は減少し、サンマ、マグロ、アジ、サバ、イカ等沖合遠洋性資源の増加等これは水産資源の動向を反映し、戦前と比べ著しい変化を示しているであります。更に漁業階層差の増大と漁業経営の動向の面では、戦後沖合遠洋漁業の著しい伸張に比べ沿岸漁業の劣勢が目立っており、そこで総漁獲高が戦前の水準に回復した年、即ち昭和二十七年を一〇〇%とすると、昭和三十三年に於ける漁獲高の伸張率では、沖合漁業は一四九%、遠洋漁業は二〇三%捕鯨業では二九〇%に対し、沿岸漁業では九六%に過ぬのでありまして若し今後このまま放置されるならばこの格差は益々激化されるものと思うのであります。更に沿岸漁家層の実態に於いては、総経営体の八六%即ち一九七〇〇の数を示しながら、生産性は極めて低く総漁獲高の一八%に過ぎぬ事は、我国漁業界の矛盾であり、また近時沿岸漁業の振興と体質改善が強く要請されている理由も、この点にあるとも考えられるのであります。一方中小漁業経営の面では、無動力船の減少と五トン未満の動力船の増加、一〇〇トン以下の中小漁船が減少し、一〇〇トン以上の大型階層が大巾に増加し、その

反面大型定置、地曳網等沿岸の大規模な網漁業は全く後退しているのがあります。反面浅海養殖漁家層の著しい増加が対照的に進んでおるのであります。また水産物の消費形態の面では生鮮より加工品特に高次加工品へと、その姿を変えつつあり、消費の傾向からみれば、鮮魚及び塩干魚は停滞気味で、魚肉ソーセージ魚肉ハム、燻製、缶詰等は伸びているのであります。今後国民経済の発展と国民生活の向上、なお国民食生活の高度化と相まって、動物性蛋白質に対する要求は益々強まると考えますが、一方競合関係にある肉、卵、牛乳との消費分野の調整及び、速やかなる対策こそ望ましいと思っております。

以上は我国漁業関係の変化についてのあらましを申し上げたに過ぎぬのであります。とにかく沿岸漁業の維持並びに振興については、余りにも悪条件が羅列してありますので、これが実現には容易な業でない事は勿論であります。けだし比較的堅実に実行し得る施策の一つは、浅海養殖であると考えますが、但しこれを阻害するものに今や全国至る所の内湾並びに海岸線に於ては、臨港工場造成のために埋立、干拓等がブーム

であり、また工場には汚濁水は付きものであって、これが及ぼす障害は全く一大打撃であることを特に痛感してやまぬ次第であります。従って本大会のプランは表彰の後、午前中は協同組合運動の指導者中の大先輩、庄司嘉先生の講演、午後は初めての試みである県下水産諸問題と、水産行政施策についてをテーマとしての懇談会を予定致しておりますので、何卒本日の御勉強を賜り、以って本大会を有意義あらしめんことを特にお願いして開会の言葉と致します。

祝 辞

兵庫農林部長 吉田 豊信

出せるものと確信致しております。御承知のように沿岸振興のための浅海増殖五ヶ年計画を打立てておりますが、この計画も現在五二%の進行をみているのであります。また三十四年度より実施しました特別助成事業として、年間三千万円或は三千万円の仕事費に對しまして、国庫と同額の県費のつぎたしを行い、三分の二の助成率による漁場の改良或いは造成並びに漁業生産、加工、流通の改善事業及び技術の指導施設の設置等、基本施設の整備充実に努めているところであります。

また東支那海出漁のサバハネ釣漁業につきましても漁業進出の一路として、県費一千万円の出費と皆様方の出資一千五百万円によりまして沖合漁業進出の第一歩をふみ出し現在その水揚成績も全船団中の一位を占めるといふ順調な滑出しをみせておりますことは、今後の海外出漁に明るい見通しを得たものと致しまして、まことに御同慶にたえないと考へるのであります。

その他試験研究施設の整備のために水産試験場の整備計画を作り、先ず生物実験水槽の設置を行い試験研究の成果を漁村に浸透させ、生産性の向上を図ろうとしておるのであります。三十五年度予算におきましても

内海の指導船を一隻建造することに致しております。また本県が二十六年から全国に先きがけて実施しました改良普及事業におきましても、ようやくその成果を固においても認識されまして国庫補助体制が出来ましたので、まえにも申しました試験研究の施設成果と相まって、沿岸振興のパイロットと致したいと考えているのであります。とくに三十五年度におきましては、凡ての施策を沿岸漁業振興総合対策に体形ずけてこれを推進し、真に総合的有機的な沿岸漁業の振興を図り、他産業と肩を並べる水産業の確立を目標として進めて行きたいと考えるのであります。皆様方及び我々は海に生きるものであります。然しながらこの海に生きる生き方、この生き方におきましては最近の情勢を見ますと非常に変わった状況を参照しながら生きていく必要があるのであるなからうかと痛感するのであります。

また先きほど大会々長の言葉にもありましたがいろいろと経済、社会というものが変わっておるといふうに考えられるのであります。たとえて申しますと一番顕著な例はいろいろな諸工場が海岸地方に出来ておりますし、また出来ようとしていることでもあります。そして技術におきましても大変昔とは変わっているといふことでもあります。漁業のことについてみましても昔の網が化セン系統に変わっているということ、或はまた昔は漕いで行った船が現在では動力化されて、船もだんだん大型になつていっているような情勢にありま

す。社会について考えて見ますと、例えば皆様方の子弟で何人漁村に残られるかということを考えていただきたいのであります。その残ります数というものは非常に少なくなつておるのではなからうかと存じますがもしそうであるとすれば、漁業に従事します労働力というものが十年二十十年の後を考えて見ますと、どういふことになるだろうか、ということとを考えて見なければならぬと思ふのであります。

また消費面について考えてみましても、いろいろと消費の事情が変わつております。水産製品についてみましても加工とか包装とかいうことが言われ、二次加工製品の需要が大きくなつていふ。こうした消費の流れであります。

要するに非常に経済、社会が変わつておるのであります。この経済、社会の変り方に対応しまして、海に生き

ていく我々の生き方も変えていかなければならぬのであります。これらの中心になり指導をされるものは漁業協同組合であります。この漁業協同組合の活潑なる、積極的なまた時代にめざめた活動がまことに望ましいと思ふのであります。とくに漁業者自らが工夫し、改革し、打解をしていく自主独立の精神をこの際必要と考えるのであります。

本日の大会に於きましては、漁業協同組合を中心とした、漁村振興の具體的な問題について御検討がなされることと思つていますが、どうか自主自立の精神の基礎の上に立って漁民生活の向上、漁業経営のあり方或は漁村のこれからの対処のしかた、といったようなことにつきましまして種々御検討していただきますようにお願いしたいと思います。

終りにのぞみまして各位におかれましては益々健康に御留意願いまして健やかに過され希望ある漁村を打ち立てていただくことをお願い致します。甚だ粗辞では御座います但し挨拶と致します。

永年勤続役員及び

研究団体の表彰

恒例により兵庫県漁業協同組合連

合会長より、永年勤続役員及び研究団体が表彰され、研究団体には同時に研究奨励金が交付された。なお表彰者並びに団体名は次の方々のである。

永年勤続役員及び研究団体の表彰

役員の名 (敬称略)

漁協名	氏名
神戸市西部	北谷源三郎
屏風浦	阪口寛一
魚住	竹本一信
〃	豊田敬治
岩見	神頭辰造
〃	古西秀一
〃	神頭作太郎
由良	平野政右衛門
〃	八野芳夫
洲本	鯛伊平
生穂	松原重平
〃	亀徳富太郎
岩屋	片浜政太郎
都志	川崎喜一郎
職員の部	
漁協名	氏名
林崎	正木良男
浜坂	松本幸一
由良	加田慶次郎
志筑浦	天野伊平
岩屋共栄	金山丑蔵
育波浦	向井さと

研究奨励金の交付及び表彰

所属 団体名

明石市 明石市漁業連合青年会

香住町 香住水産研究クラブ

生 穂 生穂漁協青年部

富 島 富島漁村青少年クラブ

宣 言

今日わが国の経済界は岩戸景気といわれる好況に恵まれているもの。沿岸漁業は依然として多数の漁民が資源の固渇した狭い漁場で零細な漁業を繰返しており、加うるに化学工業の発達にともなう工業汚水流出の増加や農業の流出等により、漁獲の減少に拍車をかけているような現状である。

そこで我等は漁業協同組合を中心に一致団結して、資源の培養並びに保護を図ると共に県外出漁等漁業転換にも力をそそぎ、漁村青年、協漁婦人部とも連絡協調のもとに漁家経済の改善を促進して、県下漁村の興隆発展を期するものである。右宣言する。

昭和三十五年三月二十六日

第八回兵庫県漁業協同組合大会

× × ×

水産試験場の新しい施設

「漁民教室」竣工す

水産試験場の正門前の空地で、今年二月からやっていた工事は、「漁民教室」と命名することになったがこれは昭和三十四年度の沿岸漁業振興総合対策事業のひとつとして、二分の一の国庫補助を受けて着工したもので、水産技術指導施設という補助項目に該当するもの。「沿岸漁業者を対象として養殖、加工、その他の水産に必要な技術を指導するために必要な施設」という使命を担っている。

命名の苦心

水産技術指導施設というのは、国庫補助の要綱に書かれた名称だけれども、いかにもしたしみにくい呼び名である。第一に長たらしいし、第二には「指導」という言葉は、ともに勉強しあい、啓発しあっていこうという改良普及事業のたまえにピッタリしない。水産試験場の施設の一部なのだから、かならずしも「水産」ということばも必要ないし、「技術」という語も省いてもよいだろ

う。もっと簡潔で、呼びやすく、したしまれやすい名前をつけようという提案が出て、試験場の内部でいろいろと案を練った。

たとえば、名前の最後につける語をどうするかというところ「室」とするか「堂」とするか「館」とするか「所」とするかで討論した。「堂」というのは、もっと堂々たる大建築の場合がふさわしいし、「所」というのは何か独立の事務所などのような感じがする。結局、「館」か「室」かなのだが、上とのつづきで「教室」とするのが一番ピッタリじゃないか、ということになった。「教室」の代りにもっとハイカラにして「スクール」とか、「ルーム」とかの英語を使おうか、という案もあったが、外国人を受け入れるわけじゃなし、日本語でいこうということをやめた。下は「教室」ときまってもその上をどうするかで「百花斉放」だったが、結局「漁民教室」におさまった次第である。

漁民教室の役割

試験場にはいろいろな施設や建物があるが、それらはすべて、試験場の職員が事務をとったり、研究をしたりするためのものである。むづかしくいえば、県の職員が主体的にこれを使用する。もちろん、場員外の人に見学を許しているし、時には設備を使用することを許可することもがあるが、それは例外に属する。

これに対して漁民教室は、漁民が自分たちの勉強のために使うことをたてまえとする。先の例にならっていうならば、この施設の主体的使用者は漁民である。試験場は施設の管理者としてその監督・備品を傷つけたり、持ち出ししたりしないようにしたり、その使い方を教えたりすること！というような責任を負っている。漁民教室は、ここで勉強しようという意志をもつすべての漁民に開放される。

教室であるから、もちろん教室にふさわしい使い方を心得てもらはなければならぬ。単なる集会や会議では困るし、極端な話だが、たとえば「ダンスパーティーをするから借してくれ」といわれたのではお断りす

るかもしれない。教室の目的に沿うことであれば、何人でも遠慮なく使うことができる。

勉強のための講師は、試験場の技師に依頼されれば無料である。もちろん他の講師を頼むこともさしつかえない。教室の使用料も原則として無料である。ただし備えつけの機関を運転するための動力費(燃料・電力)や、夜間の電灯料などは実費をいただくことになるかもしれない(こういうための予算がごくわずかであるから)

どんな設備があるか

漁民教室の大きさは約百平方メートル(三十坪余)。収容標準人員三〇―四〇名。映画や幻灯のための暗幕、機関類の運転試験設備(馬力測定機)、機関類の分解組立修理などの実習のための工具や作業台、航法実習のためのスタンドコンパスや演習台、これに現に試験場がもっている幻灯機、八ミリ映写機、録音機、映写用スクリーン、実習用顕微鏡などが備えられる。また実習用に使う漁船機関は、有力メーカーが貸与の形で出品されることになっているので、その搬入搬出移動などのために一トン荷重のホイスト(吊上げ移動

機)がある。

これらの設備を縦横に駆使すれば次のような実習ができる。

1、漁船機関の実習

分解・組立・小修理などの実習、馬力測定機を使って最も効率よく運転するにはどうすればよいかという実習。

2、航法の実習

コンパスやセクスタント(六分儀)を使う実習、衝突予防法や荒天対策の実習(幻灯応用)

8、養殖・加工・漁業などの講習

これは実習は困難であるが、試験場の豊富な資料を活用すれば、いろいろな問題の研究ができるし、顕微鏡などを使えば多少実験らしいことも不可能でない。

4、幻灯と映画

たんに話をきくというだけでは、勉強したことがなかなか身につかないものである。このことは教育方面では「視聴覚教育」といっていろいろの研究が積まれて、実証されているとおりであるので、試験場でも幻灯や映画を講習にとり入れることに努力してきた。ところが市販の製品には、漁民用として適当なものがない。水産をテーマとするものはあるにはあるが、

中学生、高校生用のものである。そこで試験場で自家製作するほかはないので、数年前から製作を重ねてきた結果、かなりの製品をもつに至った。

これらはすべて漁民教室での使用に供することができ、効果をあげてであろう。

五月七日から「教室びらき」

五月七日から十日までの四日間(毎日午前九時より午後四時まで)「教室開き」としてつぎのような行事をもよおす。

二、映画会

劇映画その他
七日午前十時より一回、八日より十日まで午前十時と、午後二時よりの二回、(県水試)

新農薬 P C P 除草剤の使用要領について

水産課

藤井昌昭

農村は三年続きの豊作を謳歌し八、〇〇〇万石の生産はもう平年作になったとさえいわれる現状である。これは戦後の農業技術の飛躍的發展がもたらした結果で、中でも昭和二十八年以後登場した新農薬の普及が大きく貢献している。

しかし新農薬の普及は、田、水路からドジョウ、エビ、タニシ等を奪い、河川、沿岸海域においては水産

資源の減少に拍車をかける結果となりつつある。これら新農薬は、市販品として種々名称が附せられ各種各様の感があるが、基本的にはパラチオン、ホリドール、マラソン、E P N等の有機燐剤、エンドリン、アルドリン、デイルドリン、B H C、P C P等の有機又は無機塩素剤、水銀、銅、砒素等の金属剤、或いは抗生物質等に分

類されると思うが、これらの水産生物に対する影響は、それぞれ農薬本来の毒性と共に、撒布量、撒布方法濃度、粉、乳剤又は水和剤、水田又は、田畑の状況等により大小区々で使用方法如何では影響をなくし又は最小限度に喰い止め得ると思われる。この点、特に水産生物への影響が顕著なエンドリン等のドリソ剤及び昨年より水田除草剤として広く普及してきたPCP剤については重大で、国においても両剤に対し各都道府県の実情に応じ注意して使用するよう、水産庁長官、農林省振興局長連名で各知事あて通達が出されている。

兵庫県においては、この通達により水産課、農務課が協議を重ねドリソ剤については、御承知の如く「各種ドリソ剤の使用要領」を定め、その使用は、集団防除が可能な点から市町村又は農民団体に限定して関係漁協組と覚書を交わすこととなったがPCP除草剤については、県下全般に散在している水田が使用対象となっているため、ドリソ剤と同じ「使用要領」を定められても実施不可能となるので、使用者個人が市町村長に使用届を出すと共に、水産生物に影響を与えないよう使用する旨の誓約書を提出し、市町村長は撒布地を検討して適当な指導を行うこととなった。このことは別表のとおり「水稲除草剤の使用規準」に「PCP除草剤の使用要領」を設け農務課において市町村、農協組、農業改良普及員、農薬取扱業者等全ての関係者に説明の上当該基準を配布し漁業被害の発生がないよう鋭意努力が払われている。

以上の本剤の使用については、全面的な使用制限乃至は、相当強い使用制限を加えた府県もあつたようであるが、本県においては、余り強い使用制限を行うことは、かえって内密に使用され危害の発生する恐れも考えられたので、個人の責任において十分な危害防止対策を講ぜしめ、併せて市町村においてもこれが使用に万全の指導を行うよう「使用要領」が定められたのである。

最後に漁業者は、使用者が定められた「使用要領」を遵守するのを注意して見守り、豊作、豊漁が共に供受され得る体制が農漁民の手によって、各地区ごとに確立されることが望まれる。

なお県下における昨年のPCP除草剤の使用状況をみると別表(3)のとおりで、本年は更に増加するものと思われる。

PCP除草剤の使用要領

1、目的
水田除草剤として使用されるPCP剤は、除草剤として卓効を有す

PCP除草剤使用届書

様式(1)

市町村長殿

昭和 年 月 日

住所
氏名

PCP除草剤を下記により使用しますので御届けいたします。

記

- 1、使用年月日
- 2、使用場所
- 3、使用面積
- 4、使用薬剤量

様式(2)

PCP除草剤使用誓約書

RCP除草剤を使用するに当つて、次のことを誓約いたします。

- 1、使用した薬剤が河川、湖沼、池、養魚池、養魚田等に流入しないようにする。
- 2、使用后10日間は排水を行わない。
- 3、薬剤剤使用時は水田の畦畔を高くし、排水口をふさいで溢流水が流出しないよう処理する
- 4、使用した容器の洗浄及び残薬の処理は河川、湖沼、池、養魚池、養魚田等の魚類に被害を与えない処で行う。

昭和 年 月 日

住所
氏名

◎使用届けの用紙は販売店に準備していますから御利用下さい。

るが、一方魚類に及ぼす毒性の關係もあるので、本剤の水田使用についてはこの要領により取扱うものとする。

2、使用地域

本剤を使用し得る地域は、使用した薬剤が河川、湖沼、池、養魚池、養魚田等に流入する恐れのない地域とする。

3、使用の届出

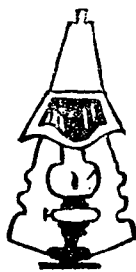
本剤を水田において使用しようとする者は、使用七日前までに別紙様式(1)による届書を市町村長に提出するものとする。

4、誓約書の提出

本剤を水田において使用しようとする者は、届出と同時に別紙様式(2)による誓約書を提出するものとする。

5、使用に対する指導

市町村長は、本剤の使用に当って薬剤が2に指定する場所に流入しないよう指導を行うと共に、使用した容器の洗浄及び残薬の処理に当っては、前記場所に流入しない処で行うよう指導すること。



水 稻 除 草 剤 の 使 用 基 準

兵庫県農務課

■ P C P【クサクロール】の使い方

- ◎PCRは非ホルモン型の接触型除草剤で非選択性である。
- ◎PCPの使い方は、田植後撒布法を原則とし、事情によって代掻前撒布法を活用する。
- ◎PCPは魚毒が大きいので撒布後10日間は越水などが起らぬよう注意すること。
- ◎田植後使用する場合田植後10日以上になるときは効果が落ちる。なお、あまりおそくなると薬害が多くなるから注意すること。
- ◎養魚池、養魚場附近では使用しないこと。
- ◎PCPは劇物であるから薬剤を調製する場合はゴム手袋を用い、撒布にはマスクを使用すること。
- ◎使用に当っては別に定められた使用要領に依り使用すること。(下記のPCP除草剤の使用要領参照) (別表1)

撒布時期	使用薬剤名	10アール当量 使用量	撒 布 法	使 用 上 の 注 意
田 植 後 5~10日 の 間	P C P 除 草 剤 (クサク ロール)	500~1,000g	1株間おきに水面 に撒布する。	① 田植後5~10日の間に撒布する。 ② なるべく稲にかからぬよう1株間おきに 水面に撒布する。 ③ 水50~70ℓにとかし噴霧器又は2.4-D撒 布機で撒布する。 ④ P C P撒布後10日間は常時湛水とし溢水或 は排水して魚毒を起さぬようにすること。 ⑤ 撒布後の土壌攪拌は行わぬこと。 ⑥ 田植後7日以上を経過して撒布する場 合は、中耕除草機を1回廻してから撒布す る。
代 掻 前	同 上	1,000g	全面に撒布し代掻 きして植付ける。	① 湛水してから2~3日後に撒布する。 ② 水50~70ℓにとかして噴霧器又は2.4-D 撒布機で全面にムラなく撒布する。 ③ P C P撒布後10日間は常時湛水とし、溢 水或は排水して魚毒を起さぬようにする。 ④ 田植後の土壌攪拌(中耕など)は行わぬ こと。

■ P C Pと2.4-D(又はM C P)の併用について

- ◎PCPを撒布すると初期雑草の発生は少いが、止草頃に2.4-Dを撒布することが望ましい。
- ◎2.4-Dは茶葉を強固にし倒伏防止に有効であるから、雑草が少くても撒希するとよい。
- ◎2.4-Dの撒布は別表の基準で使用すればよい。

■ 2.4-D及びM C Pの使い方

- ◎2.4-D・MCPはホルモン型の選択性除草剤である。
- ◎水中2.4-D、水中MCPはエステル型で揮散し易く、洗滌によって流去が困難であるため、附近の蔬菜などに被害を起し易いので注意すること。なお水中2.4-D専用使用する撒布機具を設置しておくこと。

(別表2)

撒布時期	使用薬剤名	10アール当量 使用量	撒布法	使用上の注意
田植後 30~40日	2.4-Dソ ーダ塩 (80.5%)	50~60g	全面撒布	① 落水してから撒布する。 ② 水50~60ℓにとかして撒布する。 ③ 撒布後1時間は放置し、後洪水する。
同 上	2.4-Dア ミン塩 (41.5%)	95~120g	同 上	同 上
同 上	MCPソ ーダ塩 (20.0%)	200~250g	同 上	同 上
田植後 20~30日	水中2.4-D (9%) (18%)	630~750g 280~350g	同 上	① 水50~60ℓにとかして撒布する。 ② 洪水したまま水面に撒布する。 ③ 撒布中時々液を攪拌して沈澱を防ぎなが ら撒布する。 ④ 撒布後4~5日間は水を動かさぬよう にする。 ⑤ 風下に蔬菜、桑などがあると薬害を起し 易いので注意すること。 ⑥ 必ず水中2.4-D専用の機具を用いるよう にすること。
同 上	水中MCP (9%) (18%)	630~750g 280~350g	同 上	同 上
同 上	粒状2.4-D	3.5~4.0kg	同 上	① 洪水したまま手でムラなく撒布する。 ② 撒布後4~5日間は水を動かさぬよう にする。

昭和34年度PCP除草剤使用状況

(別表3)

郡市名	項目	使用面積 ha	薬剤使用量 kg	郡市名	項目	使用面積 ha	薬剤使用量 kg
神 戸 市		33.5	335	加 東 郡		10.2	102
姫 路 市		66.0	660	加 可 郡		2.1	21
尼 崎 市		1.8	18	加 西 郡		3.2	32
明 石 市		1.6	16	加 古 郡		5.2	52
西 宮 市		0.2	2	印 南 郡		0.5	5
洲 本 市		0.7	7	飾 磨 郡		12.0	120
伊 丹 市		0.4	4	神 崎 郡		2.2	20
芦 屋 市		0	0	揖 保 郡		26.2	436
相 生 市		0.7	10	赤 穂 郡		0.2	2
豊 岡 市		12.4	114	佐 用 郡		0.2	2
加 古 川 市		2.0	20	宍 粟 郡		0.1	1
竜 野 市		44.7	405	城 崎 郡		18.7	182
赤 穂 市		0.5	5	出 石 郡		15.4	154
西 脇 市		0.9	9	美 方 郡		8.3	58
宝 塚 市		0.1	1	養 父 郡		14.1	141
三 木 市		1.5	16	朝 来 郡		12.6	126
高 砂 市		20.5	205	氷 上 郡		36.8	340
川 西 市		0.2	2	多 紀 郡		11.4	124
小 野 市		3.4	34	津 名 郡		0.6	6
三 田 市		8.5	58	三 原 郡		0.3	3
川 辺 郡		1.0	10				
美 濃 郡		0.2	2	合 計		381.1	3,860

いわしの巻 (5)

平岡安民

舞水端漁場

この半島人船頭が会社から委嘱されて前貸金を渡してやとって来た船尾室の連中に対して、漁撈長が自分の村からつれてきた腹心の漁夫十余人は船首室に屯している。仕事の時に入りまじって働くが用件以外には全く没交渉の生活をつづけている。

反感を示すでもないが決して親しもうともせぬ。水と油みたいなものだ。

ネットホーラーで九分通り網が上がる、魚取り部分の締めつけはどいうしても人力によらねばならぬ。船尾の連中はかけ声からして独特のものがある。

「セーノヤ、セーノヤ」
「セーノーヤア、セーノーヤア」というかけ声はいかにものんびりしている。少し気合がかかった所で、「ヤッサン、トーレ」

「ヤッサン、トーレ」という問ののびしたものである。

百トン以上も旋いたときは、いわしが底へ沈んで深い所で渦巻いていて、なかなか浮き上って来ず網が締められぬことがある。景気よく大漁旗を上げはしたものの漁撈長も次第にいら立って来る。

「力のないやつばかり、よくも揃うたもんじゃのう。そうひまが入って、いわしが死んでしまうたらどうもこうもならんとちやぞ」事実大量のいわしが深い所をかたまつて酸素不足で死んでしまえば、重さは何倍かに加わり締め上げはもとより、そのいわしを捨てることも容易なわざではなくなるのだ。

「そんなことで網が上がるか」
手にした采配(サイ)を振りまわして船橋の横をヤケにバチバチと叩くのである。この態度からは激励叱

咤というよりも、不満と憎悪をぶちまけたような感じを与える。
「つまらんやつばかり揃いくさつて」という罵声は漁夫らの反感をよぶ点で、船頭からビンタを喰らったときよりもはるかに強い反応を示すのである。同民族の船頭とちがって日本人であるが故に、理不尽なけいべつと強圧とを先ず感じさせられる。

「目はショボショボで赤い色しとるし、口は反っ歯でたばこのやにで黄色くなっている。万円(漁撈長)のネウチはないな」

「あの目ではいわしは見つけられないな」これが鮮人漁夫の漁撈長評である。鮮語でやっているから本人には聞こえない。

船長もあせっている漁撈長を慰めるつもりか、それとも意を迎えるつもりか

「今年の漁夫は粒が悪いとばい」といえば漁撈長が意を得たりと、わしも今年のようなつまらん漁夫を使わされるのは初めてじゃ」

自信が薄いほど、成績の上らぬ場合の責任を何ものかに押しつけるべく伏線を張ろうと考えるものだ。

この年配の日本人漁夫の一人がもう辛抱できんという表情で

「ヘン、おいどんは、おまえらの声を聞いとると、ねむたくなつてきたとばい。そんなことで網が上がるもんじゃなか。エイヤエイヤ、エイヤエイヤ。網というもんはな、声と腰とで引くもんじゃ」こういって六尺ゆたかの長身からあふれる力を足先にまでこめて、目ざましい勢いで引きだした。これに唱和して若い日本人連中は「エイヤエイヤ」「ヤッセイ、ヤッセイ」と活気あふれる場面が展ける。忽ち日本人のまじったあたりの網だけ浅くなつてしまひ、他の所は一層深くしぼんでいわしがそこへたまつたので、そうでなくさえ締めかねていた連中は不平である。

「チエツ、やかましいわい」

「キサマ、一人で網上げる」

両国語とりまぜて、ののしる者もあるが大勢はそんなことを無視して、相変らず「セーノーヤ」をくり返している。

どれほど、漁撈長が頭上からわめこうと、日本人漁夫が短兵急に先頭に立って手本を示そうと、全く取り合はぬように、ついて来ぬので結局業腹だが「セーノヤ」に合流せざるを得なくなつてしまった。いわしはいろうとはいるまいと、同じ調子

同じピッチで無表情に牛の歩くように働いているさまは、さすがに大陸的だ。彼等が島国根性の日本人のセツカチさを冷笑しているのもわかるし、魯鈍無神経といった態度の裏には底知れぬ耐久力ねばり強さがひそんでいられることも見逃せない。

二百屯もいわしがはいった時最後に綱につないだ運搬船との間に残された部分を締め付ける段取りになると彼等にも俄然生気がよみがえって来る。所謂しめ声の上がる時だ。

「ヨーシメ」という船頭の音頭の声が長たらしくひびく間、じっと綱をつかんだ手を休めていた全漁夫が一齐に「ヨーシメ」という声と共に渾身の力をこめて綱をしめる。だんだんしめつけて重くなって来ると一回に十センチ位しか上らぬようになる。二十四本十二節という板のような真新しい魚取り綱が魚の重みで破れることさえある。無事にしめ上げると大たまで一回に五トンづつくみ上げるので、二百トン積みの運搬船でも一時間余りで満載してしまふ。機関部員は四人もいるし、ワイヤローラーを締め終ると大役は済むので私は船橋の上へ上がって乗組員の仕事ぶりを眺めていることが多かった。凧ぎの日には海中の綱の状態を

観察するのもおもしろい、大きな綱には破れ穴も無数にある。この穴からうまく逃れ出た運のよい、いわしはそこが安全な広い海であるとは知る由もなく、やはり綱に沿うてウロウロしている。そしてやがて又綱の破れを見つけては綱の中へとびこんで来る。一度破れ目を出たらもう大丈夫なんだと教えてやりたいものだと思うが、その方法は全くない。自分もいわしをとっている一人でありながら、この何尾かの小魚の不運をいたましと見ぬわけにはいかない。

考えてみれば我々人間だって大なり小なり似たような愚を演じながら明暗の境を彷徨しているのではないという所をいわしのようなやつと比べて自得しているのだが、実はいわしに對しても目クソ鼻クソ位のことではないのか。いわしは人間のつくった綱を恐れるのは当然のことだ。人間が近ごろ自分がつくった核兵器とやらを恐れるの余り、却ってそれから離れることができず、ひたすら小さな抜け穴をさがすことに血眼になっっているのはどういふことなのか。いわしがそれを聞いたら笑うかも知れない。

時化で沖を休めば即ち船の公休日だ。私は船室にこもって本を見てい

たが、船首の方でただならぬざわめきが起こっているのに気がついた。甲板へ出てみると、船首のマストの下に漁夫が三四十人も集まってガヤガヤさわわいしているのだが、連中の顔付に何か気負い立ったような、こぶんの色が読みとられた。つづいて眼にうつったのは、連中の頭上高くデレッキの上に、異様なものがブラ下っていることだった。それはまぎれもなく、炊事室に備えられた二斗

漁夫が待遇の不当を鳴らし、特に食事のわるい時に抗議を示すために鍋をつり上げるという話がかねて聞いていたし、又先日米食事どきになると不平をこぼしているのを耳にしていた。沖へ出ればいわしでもあるが休んだ時は野菜も買ってこれない。醤油かけ飯を食うことさえある。船長が会社から預って船尾室の炊事係へ渡す副食物代をそっくり渡してくれぬらしい、といううわさも度々聞いている。私は別に驚くこともなくとうとうやったかと思うだけであった。その抗議は尤もかも知れんと思った。にもかかわらず、船長、漁撈長らが上陸した留守で幹部といえ自分一人である。この時にやったということが何故ともなくシヤクにさ

わった。それに両舷はるか彼方までもやって碇泊している他社の幾十隻の船から、この鍋つりを眺めている多数の人々が、拍手でもせんばかりに興味あふれるまなざしで、わいわいと声援をおくっているような気がした。こうして他船から見てもらおうというのが、ねらいであるのかも知れない。「何たる恥さらし」もうがまんならぬ気持になってきた。漁夫に對してか、船長に對しては又は会社に對してか、そのいずれでもあると連中を突きつけてデレッキの綱をとめてある所へ近づき、

「バカヤロー」と大喝すると共に綱の端を引きほどいた。ガラガラという滑車の音と共に、醜怪な物体は驚いてとびのいた漁夫達のあとに落下してきて、甲板の上でガンと砕け散った。意外な成り行きに連中も度を失って息をのみ口あんぐりで私の方を注視していた。

私はジロリと連中をにらめまわすと物もいわず、さっと踵を返して船室へ引き上げた。

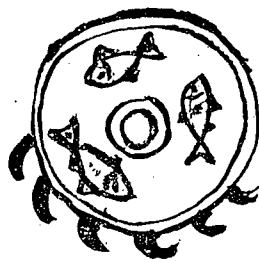
兵水式人工乾燥機の 研究会設立される

全国的に優秀とみられている兵水式人工乾燥機（設計及び指導県水試）は、その成果が知られるにともない、その技術を身につけたいとの要望が高まり去る三月三十日、人工乾燥機講習の終わったあと、芦屋市海技専門学院で、魚類人工乾燥研究会の設立総会が開かれた。

会長には島田文治郎氏（東神戸漁協組）副会長は、長谷清一（芦屋漁協組）木下清一（津居山漁

協組加工部）氏、監事藤井猛雄（明石加工協組）氏会計理事野田亀太郎（深江加工協組）氏が選任された。

なお顧問として、森沢県水産課長、県三上水試場長、日水研平井所長、川口神戸市農政局長、魚谷芦屋市民政部長の各氏をお願いすることになった。



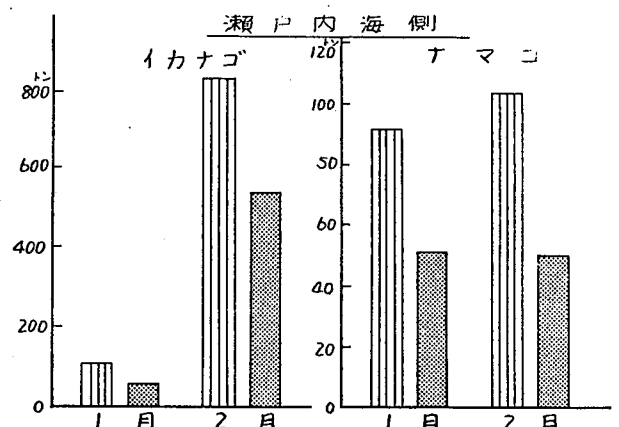
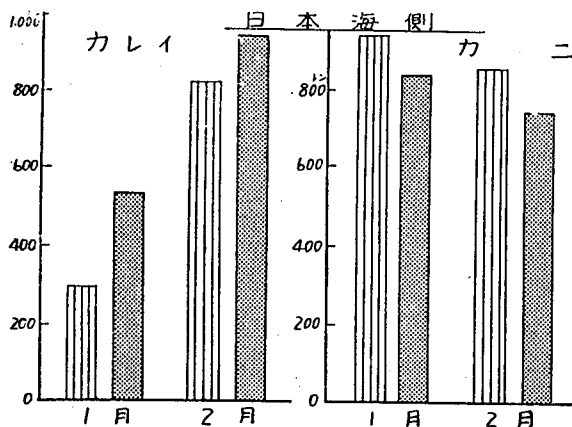
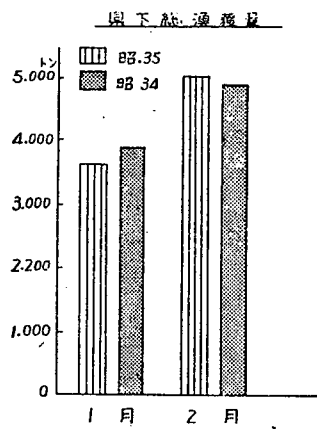
昭和三十五年一月・二月の海面漁獲の概要

昭和三十五年一月の総漁獲量は、三、七四トン、二月の総漁獲量は五、〇三五トンで、いずれも平年並（過去五ヶ年平均）の漁獲であった。

内海側では、平年漁獲量より約一割多く、日本海側では、逆に約一割少なくなっている。魚種別では、内海側は、イカナゴ（フルセ）、アナゴ、ナマコ等の漁獲がよく、日本海側では、カレイ、ハタハタ、ニギス等が不振であるが、昨年末悪かったタラ

とカニの漁獲は、今年に入ってから順調である。（水産課調整係）

昭和三十五年一月・二月の漁獲量と
昭和三十四年同月・同様の漁獲量との比較



昭和35年1月中の海面漁獲量 (単位:トン)

海区 年度 魚種	県 総 計				瀬 戸 内 海				日 本 海				
	35年	34年	増減量	率	35年	34年	増減量	率	35年	34年	増減量	率	
総 計	31714.3	3,839.7	△ 125.4	97	1,543.4	1,460.5	82.9	106	2,170.9	2,379.2	△ 208.3	91	
魚	イ ワ シ	32.8	165.6	△ 132.8	20	32.8	△ 132.7	20					
	イ カ ナ ゴ	151.1	75.9	75.2	199	151.1	75.9	75.2	199				
	タ ラ	454.6	166.3	285.3	272					451.6	196.3	285.3	272
	カ レ イ	405.1	641.7	△ 236.6	63	64.7	134.2	△ 69.5	48	340.4	507.6	△ 167.1	67
	タ イ	9.1	13.2	△ 4.1	69	4.3	7.9	△ 3.6	54	4.8	5.3	△ 0.5	91
	サ バ	0.3		0.3						0.3		0.3	
	ア シ	2.2	5.9	△ 3.7	37	0.1	5.1	△ 5.0	20	2.1	0.9	1.2	233
	サ ワ ラ	1.0	1.0		100	1.0	1.0		100				
	ブ ハ マ	20.9	2.7	18.2	774	0.6		0.6		20.3	2.6	17.7	781
	ボ ラ	22.0	21.5	0.5	102	22.0	21.4	0.6	103				
	ハ モ	0.5	3.6	△ 3.1	32	0.5	3.6	△ 3.1	14				
	ア ナ ゴ	97.9	66.6	31.3	147	97.6	66.4	31.2	147	0.3		0.3	
	シ イ ラ												
類	サ メ	4.0	9.0	△ 5.0	44	3.5	3.0	0.5	117	0.5	6.0	△ 5.5	83
	ハ タ ハ タ	61.7	491.2	△ 429.5	13					91.7	491.2	△ 461.8	13
	ニ ギ ス	29.4	43.2	△ 13.8	68					29.4	43.2	△ 13.8	68
	その他の魚類	334.0	258.7	75.3	129	244.5	148.9	95.6	164	89.5	109.8	△ 20.3	82
	(魚類計)	1,623.6	1,966.1	△ 342.5	83	622.7	633.0	△ 10.3	98	1,000.9	1,333.0	△ 332.1	75
水産動物	スルメイカ	164.5	152.6	11.9	108					164.5	152.6	11.9	108
	その他のカ	37.7	42.2	△ 4.5	89	34.3	26.9	7.4	128	3.4	15.3	△ 11.9	22
	タ コ	102.9	72.0	30.9	143	92.0	60.9	31.1	151	10.9	11.1	△ 0.2	98
	エ ビ	118.3	62.3	56.0	190	66.6	43.4	23.2	153	15.7	18.9	32.8	274
	カ ニ	926.6	832.9	93.7	111	3.4	2.8	0.6	121	923.2	830.1	93.1	111
	ナ マ コ	94.0	55.2	38.8	170	94.0	55.2	38.8	170				
	その他の水産動物 /水産動物計	1.8	2.2	0.4	82	1.8	2.2	△ 0.4	82				
貝類	460.4	382.2	78.2	120	444.1	364.0	80.1	122	16.3	18.2	△ 1.9	90	
藻類	184.5	272.0	△ 87.5	68	184.5	272.0	△ 87.5	68					

(注) △は減 ○は漁獲量50kg未満 (50kg以上は100kgに切上げ)

昭和35年2月中の海面漁獲量 (単位: トン)

海区 魚種	県 総 計				瀬 戸 内 海				日 本 海				
	35年	34年	増減量	率	35年	34年	増減量	率	35年	34年	増減量	率	
総 計	5,034.9	4,900.2	134.7	103	2,392.9	1,989.4	403.5	120	2,642.0	2,910.7	△ 268.7	91	
魚	イ ワ シ	10.2	78.5	△ 68.3	13	10.2	78.5	△ 68.3	13				
	イ カ ナ ゴ	818.2	548.1	270.1	149	818.2	548.1	270.1	149				
	タ ラ	632.9	148.0	484.9	428					632.9	148.0	484.9	428
	カ ヒ レ イ メ	1,032.7	1,119.8	△ 87.1	92	231.2	209.0	22.2	111	801.5	910.9	△ 109.4	88
	タ イ	5.2	7.3	△ 2.1	71	3.0	2.9	0.1	103	2.2	4.4	△ 2.2	50
	サ バ	0.5		0.5						0.5		0.5	
	ア ジ	0.1		0.1						0.1		0.1	
	サ フ ラ												
	フ ハ マ リ チ	4.7	11.6		41					4.7	11.6	△ 6.9	41
	ボ ラ	13.4	7.3		184	13.4	7.3		184				
	ハ モ	0.1				0.1							
	ア ナ ゴ	84.8	71.8	12.9	118	84.5	71.8	12.7	118	0.3		0.3	
	シ イ ラ												
	サ メ	20.9	45.8	△ 24.9	46	4.8	7.1	△ 2.3	68	16.1	38.7	△ 22.6	42
	類	ハ タ ハ タ	107.3	765.9	△ 658.6	14					107.3	765.9	△ 658.6
ニ ギ ス		20.1	50.0	△ 29.9	40					20.1	50.0	△ 29.9	40
その他の魚類		340.0	276.2	63.8	123	254.1	157.0	97.1	162	85.9	119.3	△ 33.4	72
(魚類計)		3,091.0	3,130.7	△ 39.7	99	1,419.4	1,081.7	337.7	131	1,671.6	2,049.0	△ 377.4	82
水産動物	スルメイカ	1.8		1.8						1.8		1.8	
	その他のカニ	33.7	35.4	△ 1.7	95	32.6	28.4	4.2	115	1.1	7.0	△ 5.9	16
	タ コ	113.8	104.3	9.5	109	98.3	84.4	13.9	116	15.5	19.9	△ 4.4	78
	エ ビ	136.9	91.2	45.7	150	73.9	31.0	42.9	238	63.0	60.2	2.8	105
	カ ニ	870.3	759.5	110.8	115	1.6	3.0	△ 1.4	53	868.7	756.5	112.2	115
	ナ マ コ	113.1	48.1	65.0	235	113.0	48.0	65.0	235	0.1		0.1	
	その他の水産動物 (水産動物計)	2.5	3.8	△ 1.3	66	2.5	3.8	△ 1.3	66				
貝類	566.9	574.1	△ 7.2	99	546.7	555.9	△ 9.2	98	20.2	18.1	2.1	112	
藻類	105.0	153.2	△ 48.2	69	105.0	153.2	△ 48.2	69					

(注) △ 減 ○は漁獲量50kg未満 (漁獲量50kg以上は100kgに切上げ)

われらの漁民銀行

兵庫県信用漁業協同組合連合会

会 長 島 田 文 治 郎

本 所 兵庫県立水産会館内 直通電話⑥0193
但馬支所 香住町中浜頭 香住125

購 買 品 は 漁 連 て

兵庫県内海漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

本 部 兵庫県立水産会館内 直通電話⑤3424—5
明石油槽所 明石市船町 明石3207
富島油槽所 北淡町富島 富島 66
仮屋出張所 淡路町仮屋 仮屋 59

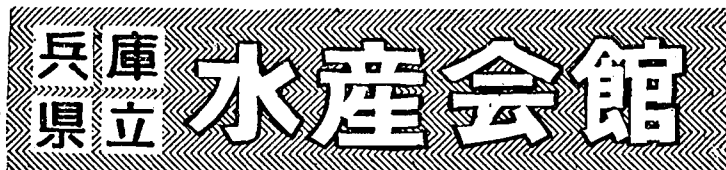
購 買 品 は 系 統 利 用

但馬漁業協同組合連合会

会 長 西 上 重 式

城崎郡香住町香住 電話香住 154

神戸市兵庫区
新在家町



電話⑤8301(事務所)

電話⑤9563(宿泊所)